

報告者* 自民党富山県議会議員会政調会
福祉環境部会

整理番号	1132		使途項目*	01_調査研究費	01_調査研究費・02_研修費 03_広聴広報費・04_要請陳情等活動費
活動期間	令和7年10月27日	から	活動の概要*	福祉環境部会 海外視察研修(スリランカ)	
	令和7年11月1日	まで	(内容) 別紙	(参加者) 藤井大輔 大井陽司 山本 徹 奥野詠子 亀山 彰 寺口智之	
場所	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設NAGAI ・Jetwing本社 (環境対応のホテル経営) ・JETORO ・UNDPスリランカ事務所 ・日本人墓地 ・One Gelle Face Mall 				
			金額*	金額*	
① 航空券	852,300		⑪ ガイド代(宿泊費・タクシー代含む)	201,548	
② 宿泊料(東京:1泊朝食付き)	59,880		⑫ 現地専用車	96,900	
③ JR代(5名)	232,940		⑬ 通訳代	8,160	
④ 渡航手続き手数料	39,600		⑭ 現地旅行会社手数料	27,540	
⑤ 海外取扱手数料	44,000		⑮ JR代・タクシー代(寺口)	30,510	
⑥ レンタル代(通信機器)	14,150		⑯ お土産代	30,999	
⑦ 立替金振込手数料(日本→スリランカ)	5,000		⑰ 名刺代	14,300	
⑧ 宿泊料(現地:3泊3朝食:1昼食・1夕食)	288,300				
⑨ 食事代(2昼食・2夕食)	42,000				
⑩ 入場料	49,266		計	2,037,393	
《領収書貼付枠》 (原則、領収書を徴し、重ならないように貼付すること。 枠内に貼付しきれない場合は、別紙に整理すること。)					

収受 令和 年 月 日
 決裁 令和 年 月 日
 処理 令和7年12月11日

福祉環境部会 海外視察研修

旅行会社請求 1

月 日 令和7年10月27日(月)～11月1日(土)

視察先 スリランカ

参加者 藤井大輔 大井陽司 山本徹 奥野詠子 亀山彰 寺口智之

項目	内 容		単 価	数	金 額
航空券	国際線	成田～コロンボ 往復 エコノミ一席	128,000	6	768,000
	現地空港税		14,050	6	84,300
					852,300
国内宿泊料	ホテルマイステイズプレミア成田 朝食付き		9,980	6	59,880
JR券代	新高岡駅発車 グリーン		47,980	1	47,980
	富山駅発着 グリーン		46,240	4	184,960
					232,940
渡航手数料	スリランカETA取得		6,600	6	39,600
海外取扱手数料	現地滞在費 立替		44,000	1	44,000
レンタル代金	Wi-Fi機器 5日間		14,150	2	28,300
振込手数料	立替金銀行振込(日本→スリランカ)		5,000	1	5,000

政務活動費	個人負担
768,000	
84,300	
852,300	0

47,980	
184,960	
232,940	

39,600	
--------	--

44,000	
--------	--

14,150	14,150
--------	--------

5,000	
-------	--

合計 (①～⑦)	1,262,020
----------	-----------

1,247,870	14,150
(①～⑦)	
1,262,020	

(個人負担 1人:2,358円)

※ 宿泊費：県の旅費規程により、12,100円(日本)を上限とする。

※ 食事代：朝食1,000円 昼食1,500円 夕食：2,000円

自由民主党富山県議会議員会
政務調査会 福祉環境部会 御中

観光庁長官登録旅行業 第818号
㈱ニュージャパ
本社
登録番号: T523004002397
〒930-0857 富山県富山市奥田新町8番1号
ボルファートとやま

TEL: 076-444-3413

TEL:076-441-2000 FAX:076-431-2735


請求書

この度は弊社をご利用頂きまして、誠にありがとうございます。
つきましては、下記の通りご請求申し上げますのでよろしくお願い致します。

			金額
<input type="checkbox"/> 出発日	2025年10月27日 (月)	(A00001)	
<input type="checkbox"/> ツアー名	富山県議会自民党 福祉環境部会海外視察		
<input type="checkbox"/> 明細			
海外航空券代			
成田〜コロンボ 往復 エコノミー席	(¥128,000 X 6)		¥768,000
現地空港諸税	(¥14,050 X 6)		¥84,300
宿泊代			
ホテルマイステイズ*プレミア成田 シングル 朝食付	(¥9,980 X 6)		¥59,880
JR券代			
新高岡駅発着 グリーン 1名	(¥47,980 X 1)		¥47,980
富山駅発着 グリーン 4名	(¥46,240 X 4)		¥184,960
渡航手続き手数料			
スリランカETA取得	(¥6,600 X 6)		¥39,600
海外取扱手数料			
現地滞在費 立替	(¥44,000 X 1)		¥44,000
レンタル代金			
Wi-Fi機器 5日間	(¥14,150 X 2)		¥28,300
振込手数料			
立替金銀行振り込み	(¥5,000 X 1)		¥5,000
	【金額合計】	【内消費税額合計】	
	¥1,262,020	¥37,247	
	消費税10%対象	¥409,720 (内消費税)	¥37,247
	消費税対象外	¥852,300	

お支払いは弊社下記銀行口座へ
12月19日 までにお振込願います。

振込先: 北陸銀行 奥田支店 当座 4038850
口座名: カ) ニュージャパントラベル
㈱ニュージャパントラベル

ご請求額	¥1,262,020
ご入金額	¥0
今回ご請求額	¥1,262,020
担当者	

福祉環境部会 海外視察研修

旅行会社請求 2 (現地旅行会社手配分)

項目	内容	単価	数	金額	政務活動費	個人負担
海外宿泊代	グランベルホテルコロンボ 2泊2朝食	28,050	6	168,300	168,300	0
	ジェットウイングヴィル 1泊3食	76,500	6	459,000	120,000	339,000
				627,300	288,300	339,000

⑧

食事代	10/28 夕食	7,650	8	61,200	12,000	49,200
	10/29 昼食	5,100	6	30,600	9,000	21,600
	10/29 夕食	7,140	6	42,840	12,000	30,840
	10/31 昼食	7,238	6	43,428	9,000	34,428
				178,068	42,000	136,068

⑨

入場料	シーギリヤロック入場料	5,508	7	38,556	38,556	0
	ダンブッラ石窟入場料	1,530	7	10,710	10,710	0
				49,266	49,266	0

⑩

ガイド代	同行ガイド費	120,458	1	120,458	120,458	0
	同行ガイド宿泊費	76,500	1	76,500	76,500	0
	同行ガイドタクシー代	2,295	2	4,590	4,590	0
				201,548	201,548	0

⑪

現地専用車	ヴァンチャーター費	96,900	1	96,900	96,900	0
-------	-----------	--------	---	--------	--------	---

⑫

通訳代	通訳手配料	2,040	1	2,040	2,040	0
	半日通訳費	6,120	1	6,120	6,120	0
				8,160	8,160	0

⑬

現地旅行社手数料	現地旅行社手数料	2,040	1	2,040	2,040	0
	アポイント取得料	5,100	5	25,500	25,500	0
				27,540	27,540	0

⑭

1,188,782	713,714	475,068
	(⑧~⑭)	
	1,188,782	

※ 宿泊費：県の旅費規程により、15,500円（スリランカ）を上限とする。

※ 食事代：朝食1,000円 昼食1,500円 夕食：2,000円

(1人：79,178円)

自由民主党富山県議会議員会
政務調査会 福祉環境部会 御中

観光庁長官登録旅行業 第338号
㈱ニュージャパントラベル
本社
登録番号: T523600100397
〒930-0857 富山県富山市奥田新町8番1号
ボルファートとやま

TEL: 076-444-3413

TEL:076-441-2000 FAX:076-431-2735


請求書

この度は弊社をご利用頂きまして、誠にありがとうございます。
つきましては、下記の通りご請求申し上げますのでよろしくお願い致します。

			金額
<input type="checkbox"/> 出発日	2025年10月27日 (月)	(A00001)	
<input type="checkbox"/> ツアー名	富山県議会自民党 福祉環境部会海外視察		
<input type="checkbox"/> 明細			
海外宿泊代			
グランベルホテルロンボ 2泊 朝食付	(¥28,050 X 6)		¥168,300
ジェットウイングザイル 1泊 3食付	(¥76,500 X 6)		¥459,000
食事代			
10/28夕食	(¥7,650 X 8)		¥61,200
10/29昼食	(¥5,100 X 6)		¥30,600
10/29夕食	(¥7,140 X 6)		¥42,840
10/31昼食	(¥7,238 X 6)		¥43,428
その他手配			
シキリヤロック入場料	(¥5,508 X 7)		¥38,556
ダンプラー石窟入場料	(¥1,530 X 7)		¥10,710
同行ガイド費	(¥120,458 X 1)		¥120,458
同行ガイド宿泊	(¥76,500 X 1)		¥76,500
ヴァンチャーター費	(¥96,900 X 1)		¥96,900
通訳手数料	(¥2,040 X 1)		¥2,040
半日通訳費	(¥6,120 X 1)		¥6,120
現地旅行社手数料	(¥2,040 X 1)		¥2,040
ポイント取得費	(¥5,100 X 5)		¥25,500
ガイドタクシー代	(¥2,295 X 2)		¥4,590
	消費税対象外	¥1,188,782	

お支払いは弊社下記銀行口座へ
12月19日 までにお振込願います。

振込先: 北陸銀行 奥田支店 当座 4038850
口座名: カ) ニュージャパントラベル
㈱ニュージャパントラベル

ご請求額	¥1,188,782
ご入金額	¥0
今回ご請求額	¥1,188,782
担当者	

【領収書：旅行会社請求書分】

	請求額	部会	個人
請求書 1	1,262,020	1,247,870	14,150
請求書 2	1,188,782	713,714	475,068

< 請求書 1 >

領 収 証

No. 31742

自由民主党 富山県議会 議員 政調会
福祉環境部会

殿

2025 年 12 月 11 日

¥ 1,262,020

(税込)

但し、アリアカ観光社費

上記の金額正に領収致しました



- 本社 富山県奥田新田6丁目 (ボルファートとやま)
 TEL (076) 431-2735 FAX (076) 431-2735
 ファボーレ店 南砺支店 アルプラザ小杉
 名古屋支店 金沢営業所



< 請求書 2 >

領 収 証

No. 31743

自由民主党 富山県議会 議員 政調会
福祉環境部会

殿

2025 年 12 月 11 日

¥ 1,188,782

(税込)

但し、アリアカ観光社費

上記の金額正に領収致しました



- 本社 富山県奥田新田6丁目 (ボルファートとやま)
 TEL (076) 431-2735 FAX (076) 431-2735
 ファボーレ店 南砺支店 アルプラザ小杉
 名古屋支店 金沢営業所



寺口議員支払分（立替分）

10/27	鉄道	新幹線	黒部宇奈月温泉→東京	10,680
		成田エクスプレス	東京→成田	2,460
	タクシー		成田→ホテル	2,700
11/1	鉄道	成田エクスプレス	成田→東京	1,120
		新幹線	東京→黒部宇奈月温泉	11,550
	駐車場		黒部宇奈月温泉駅	2,000
				30,510

⑮

【鉄道】 10/27

黒部宇奈月温泉駅 → 東京駅 → ホテル
(新幹線) (成田エクスプレス・タクシー)

発行日 2025年10月22日17時40分
発行番号 No.E762991292168951027

えきねっと ご利用票兼領収書
下記の金額を、確かに領収しました。

東日本旅客鉄道株式会社
登録番号：T9011001029597

宛名	寺口 智之様
金額	¥10,680(税込10%) クレジットカード利用(カード番号下4桁: [REDACTED])
但し	きっぷのご購入代金として

きっぷの明細

予約番号	E76299
購入日	2025年10月22日
乗車日	2025年10月27日
列車名・区間	○はくたか568号指定席(乗車券込み) 黒部宇奈月温泉 → 東京
ご利用人数	おとな1名

発行日 2025年10月27日18時48分
発行番号 No.E631791292168951027

えきねっと ご利用票兼領収書
下記の金額を、確かに領収しました。

東日本旅客鉄道株式会社
登録番号：T9011001029597

宛名	寺口 智之様
金額	¥2,460(税込10%) クレジットカード利用(カード番号下4桁: [REDACTED])
但し	きっぷのご購入代金として

きっぷの明細

予約番号	E63179
購入日	2025年10月27日
乗車日	2025年10月27日
列車名・区間	○成田エクスプレス(横浜)53号指定席 東京 → 空港第2ビル ○乗車券 東京 → 空港第2ビル(千葉県)
ご利用人数	おとな1名

【タクシー】

領収書

車両番号 0496号
2025年10月27日21:30
毎度ご乗車ありがとうございます。
(現金、チケット、クーポン、カード)
乗車料金 2700円
運賃料金計 2700円
計 2700円
消費税率 10.0%

松崎交通株式会社 登録番号:T4040001043222

松崎交通

お忘れ物は、忘れ物検索サービスFindへ
QRを読み込み、LINEからお問合せ
お電話によるお問合せ
Tel.0478(22)7964



【鉄道】

成田空港 → 東京駅 → 黒部宇奈月温泉駅
(成田エクスプレス) (新幹線)

発行日 2025年11月01日10時36分
発行番号 No.E238051292168951101

えきねっと ご利用票兼領収書
下記の金額を、確かに領収しました。

東日本旅客鉄道株式会社
登録番号: T9011001029597

宛名	寺口 智之 様
金額	¥11,550(税込10%) クレジットカード利用(カード番号下4桁: [REDACTED])
但し	きっぷのご購入代金として

きっぷの明細

予約番号	E23805
購入日	2025年11月01日
乗車日	2025年11月01日
列車名・区間	○はくたか561号自由席(乗車券込み) 東京 → 黒部宇奈月温泉
ご利用人数	おとな1名

発行日 2025年11月01日09時30分
発行番号 No.E323151292168951101

えきねっと ご利用票兼領収書
下記の金額を、確かに領収しました。

東日本旅客鉄道株式会社
登録番号: T9011001029597

宛名	寺口 智之 様
金額	¥1,120(税込10%) クレジットカード利用(カード番号下4桁: [REDACTED])
但し	きっぷのご購入代金として

きっぷの明細

予約番号	E32315
購入日	2025年11月01日
乗車日	2025年11月01日
列車名・区間	○成田エクスプレス(横浜)10号指定席 空港第2ビル → 東京
ご利用人数	おとな1名

【駐車場】

黒部市営新幹線駅第3駐車場

黒部市
登録番号 T7000020162078
全て消費税10%適用対象

領収証

入庫日時 2025年10月27日 09時52分
出庫日時 2025年11月01日 13時56分
No.01-000086 券No.01-013320

駐車料金(一般)	2000円
料金計	2,000円
投入現金	2,000円
釣銭額	0円

↓
乗車券紛失のため
特急券のよ計上

【お土産代】



ささら屋富山金泉寺店
〒9300906
富山県富山市金泉寺41-1
TEL:076-451-4771
日の出屋製菓産業株式会社
登録番号:T3230001008768
端末番号:8344

2025-10-26 17:46:25 端末取引ID:115656-0

領収証

自由民主党富山県議会議員会政調会
福祉環境部会

大井 陽司 様

しろえび紀行中箱 ※
4902403260479 @2,484x5 ¥12,420

小計 ¥12,420
合計 ¥12,420
内消費税 (¥920)
(8%対象 ¥12,420 内消費税 ¥920)

領収金額

¥12,420-(ア)
(税 ¥920-)

注) ※は軽減税率(8%)適用

但し) お菓子代として(軽減税率対象)

上記正に領収いたしました。



10/28 神谷氏・アラハコーン氏

10/29 Nawa loka 高齢者施設

Jetwinng本社

JETORO

UNDPスリランカ

ダイキグループ本社

10/30 在スリランカ日本大使館

久保書記官、坂本領事

海上自衛隊 中嶋海曹長



ととやま
富山県いぎいぎ物産株式会社
富山市新富町1-2-3 C1Cビル
TEL 076-444-7137

2024年2月1日より、ポイントカードのポイントを、ご利用券へ交換する比率を変更します。詳しくは窓口でご確認ください。

2025年10月27日(月) 14:11 No:0001

2108023309327
0802富山もよう ハンカチ ¥800
2108023309310 タオル
0802富山もよう ハン ¥800
2108023309242
0802富山もよう ハン ¥800
2108023309303
0802富山もよう フェイス ¥1,600
2108023309297 タオル
0802富山もよう フェ ¥1,600
2108023309266
0802富山もよう フェ ¥1,600
2111023309082
1102富山もよう クリア
単400× 2個 ファイル ¥800
2111023309013
1102富山もよう クリ
単400× 2個 ¥800
2111023309020
1102富山もよう クリ
単400× 2個 ¥800
2111023309068
1102富山もよう クリ ¥400
2103060119014
0306名刺入れ(ケース
単2,130× 3個 ¥6,390
2108983499014
0898紙袋(大)
単50× 10個 ¥500

小計 ¥16,890
外税2対象額 10.00% ¥16,890
外税2 10.00% ¥1,689
合計 ¥18,579 (ア)
(内消費税等 ¥1,689)

クレジット ¥18,579
(消費税等 ¥1,689)

*マークは軽減税率(8%)適用商品
登録番号:T5230001001936

責No:00000007: [REDACTED]
取引No0001 26点買

合計 ¥30,999 (ア+イ)

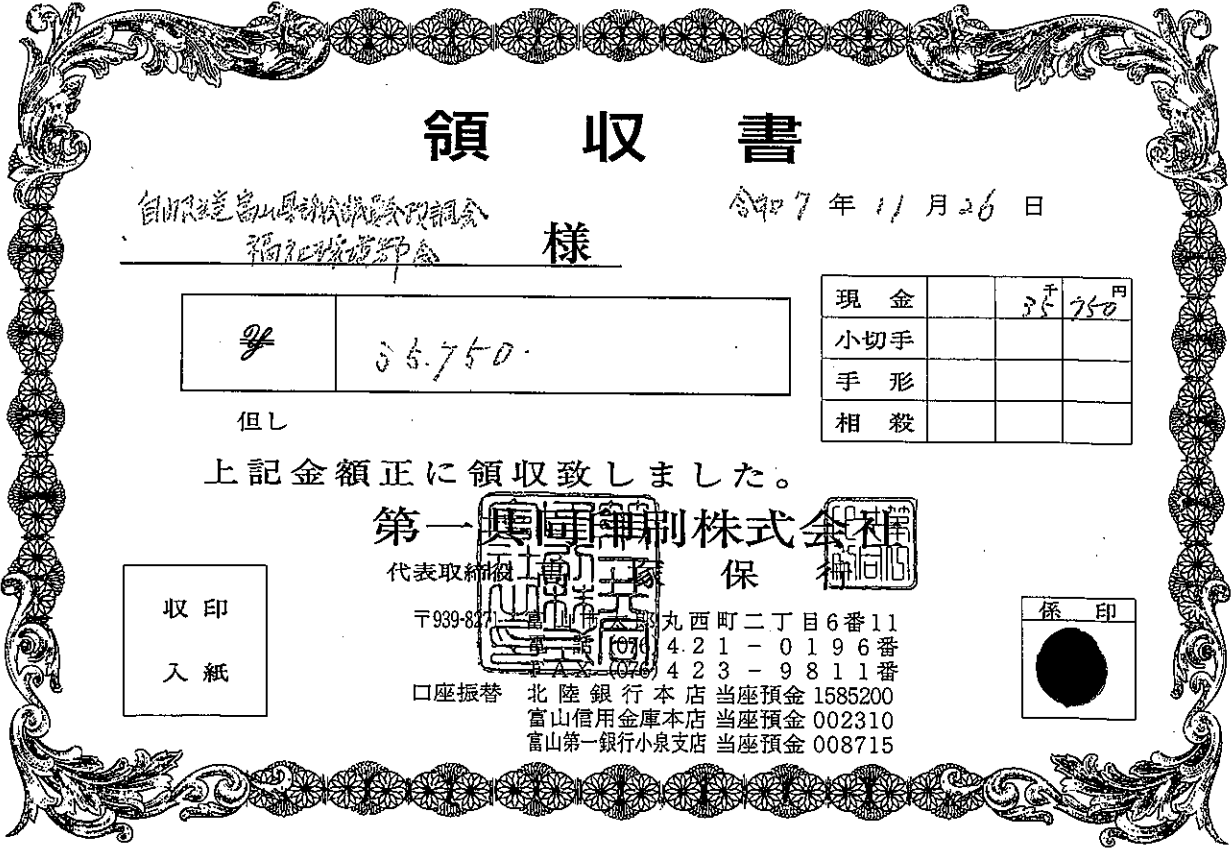
(16)

【名刺代】

藤井大輔 大井陽司 奥野詠子 亀山 彰 寺口智之

	数量	単価	金額	政務活動費	議員負担
名刺 (両面カラー) 1人100枚	5	7,150	35,750	14,300	21,450
					1人4,290円

40%対象 (17)



領 収 書

自明道富山県福祉環境部会
福祉環境部会

令和7年11月26日

様

¥ 35,750

現金		¥ 35,750
小切手		
手形		
相殺		

但し

上記金額正に領収致しました。

第一興産印刷株式会社

代表取締役 亀山 保

収印
入紙

係印

〒939-8271 富山県富山市丸西町二丁目6番11
 電話 (076) 421-0196 番
 FAX (076) 423-9811 番
 口座振替 北陸銀行本店 当座預金 1585200
 富山信用金庫本店 当座預金 002310
 富山第一銀行小泉支店 当座預金 008715

請 求 書

令和 7 年 10 月 30 日

自由民主党 富山県議会 議員 会 政 調 査 会

福 証 環 境 研 究 会

様

第一共済株式会社

代表取締役

保 険 行



〒939-8271 富山県富山市西町二丁目6番11
 1-0196番
 3-9811番
 口座振替 北陸銀行本店 当座 1585200番
 富山信用金庫本店 当座 002310番
 富山第一銀行小泉支店 当座 008715番


合計金額 ¥ 35,750-

平素は格別の御引立を賜り有難く厚く御礼申し上げます。納入品の代金は下記の通りですので何卒御支払下さいませ御願い申し上げます。

明 細

品 名 及 仕 様	数 量	単 価	金 額	摘 要
名 刺 両 面 刷	5 冊	円 6,500-	円 32,500-	
備考欄	小 計		32,500	
	消 費 税		3,250	
	合 計		35,750	

福祉環境部会 (スリランカ)

富山県議会議員  富山県

藤井大輔


〒930-8501
富山県富山市新総曲輪1-7 富山県議会内
電話 076 (431) 5244/FAX 076 (441) 8421

Toyama Prefectural
Assembly Member

Daisuke Fujii

1-7 Shinsogawa, Toyama City,
Toyama, 930-8501, JAPAN
TEL:+81-76-431-5244
FAX:+81-76-441-8421



富山県議会議員  富山県


大井陽司


〒930-8501
富山県富山市新総曲輪1-7 富山県議会内
電話 076 (431) 5244/FAX 076 (441) 8421

Toyama Prefectural
Assembly Member

Yoji Oi

1-7 Shinsogawa, Toyama City,
Toyama, 930-8501, JAPAN
TEL:+81-76-431-5244
FAX:+81-76-441-8421



富山県議会議員  富山県


奥野詠子


〒930-8501
富山県富山市新総曲輪1-7 富山県議会内
電話 076 (431) 5244/FAX 076 (441) 8421

Toyama Prefectural
Assembly Member

Eiko Okuno

1-7 Shinsogawa, Toyama City,
Toyama, 930-8501, JAPAN
TEL:+81-76-431-5244
FAX:+81-76-441-8421



富山県議会議員  富山県


亀山 彰


〒930-8501
富山県富山市新総曲輪1-7 富山県議会内
電話 076 (431) 5244/FAX 076 (441) 8421

Toyama Prefectural
Assembly Member

Akira Kameyama

1-7 Shinsogawa, Toyama City,
Toyama, 930-8501, JAPAN
TEL:+81-76-431-5244
FAX:+81-76-441-8421



富山県議会議員  富山県


寺口智之

〒930-8501
富山県富山市新総曲輪1-7 富山県議会内
電話 076 (431) 5244/FAX 076 (441) 8421

Toyama Prefectural
Assembly Member

Tomoyuki Teraguchi

1-7 Shinsogawa, Toyama City,
Toyama, 930-8501, JAPAN
TEL:+81-76-431-5244
FAX:+81-76-441-8421





部会名	数	金額
企画財務部会	5	35,750
福祉環境部会	5	35,750
文教公安部会	3	21,450
	13	92,950

お客様コードNo. XXXXXXXXXX

請求書

1 / 1
伝票No.008774

2025年10月30日

〒939-8271 富山県小泉町五番地11番11
第一共同印刷株式会社
 代表取締役 **豊田 保行**
 電話 (076-422-0611) 番
 FAX (076-422-0611) 番
 振込銀行 北陸銀行本店 当座 1585200
 富山信用金庫本店 当座 02310
 富山第一銀行小泉支店 当座 008715

自民党富山県議会議員会政調会 御中

担当者：高塚 保行

登録番号：T8230001001454

毎度ありがとうございます。下記の通り御請求申し上げます。

商 品 名	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
名刺 各100枚 両面カラー	13	名分	6,500.00	84,500	
合 計				消費税10% 8,450	
				合計 92,950	

摘 要

お客様コードNo. XXXXXXXXXX

納品書

1 / 1
伝票No.008774

2025年10月30日

〒939-8271 富山県小泉町五番地11番11
第一共同印刷株式会社
 代表取締役 **豊田 保行**
 電話 (076-422-0611) 番
 FAX (076-422-0611) 番
 振込銀行 北陸銀行本店 当座 1585200
 富山信用金庫本店 当座 02310
 富山第一銀行小泉支店 当座 008715

自民党富山県議会議員会政調会 御中

担当者：高塚 保行

毎度ありがとうございます。下記の通り納品致しますので御査収下さい。

商 品 名	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
名刺 各100枚 両面カラー	13	名分	6,500.00	84,500	
合 計				84,500	

摘 要

県外・海外 政務活動報告書

会派名 自由民主党富山県議会議員会

議員名 大井 陽司 (福祉環境部会 副委員長)

整理番号	1132
活動名称	富山県議会福祉下院協部会 スリランカ視察について
目的	視察の目的は、高齢者介護・ヘルスケア分野の調査:日本資本の高齢者施設(NAGAI、David's Bungalow)を訪問し、高齢化が進行するスリランカでのビジネス展開事例や介護の現状を学びます。 サステナビリティと環境対応ビジネスの調査:環境対応のホテル経営を行うJetwing本社や、SDGsへの取り組みを行うUNDPスリランカ事務所を訪問し、持続可能な開発に関する取り組みを調査します。
日程	令和7年10月27日～11月1日
場所 (国名・都市名、施設名、訪問先等)	詳細別紙参照
相手方等 (主催者、対応者、参加者、同行者等)	詳細別紙参照
行程・活動内容	詳細別紙参照

※日帰りの政務活動を含む。

福祉環境部会海外視察

スリランカ

報告書

視察期間： 2025 年 10 月 27 日(月)～11 月 1 日(土)

1. 参加者(敬称略・順不同)

	名前	所属		名前	所属
1	藤井 大輔	県議/部会長	2	大井 陽司	県議/副部会長
3	山本 徹	県議	4	奥野 詠子	県議
5	亀山 彰	県議	6	寺口 智之	県議

2. 事務局

	名前	所属		名前	所属
1	██████████	議会事務局調査課(同行なし)	2	神谷 政志	スリランカ法人 Spice Up Lanka 代表(現地ガイド)
3					

3. 全体スケジュール (当初案)

場所	日時	内容
富山駅～東京駅 (新幹線) 東京駅～成田空港 (成田エクスプレス)	10/27(月)	15:55 JR つるぎ 26 号 15:55 発→16:04 着(※山本議員) 16:17 JR かがやき 510 号 16:17 発=18:28 着 19:03 成田エクスプレス 19:03 発 20:30 無料シャトルバスで移動(第 2 ターミナル 26 番バス停) 20:50 成田空港周辺 ホテル(ホテルマイステイズプレミア成田)チェックイン
移動	10/28(火)	8:30 ホテル(ホテルマイステイズプレミア成田)チェックアウト 無料シャトルバスで移動(T2) 11:20 成田空港発 17:30 バンダラナイケ国際空港着 19:00 コロンボ市内 Granbell Hotel Colombo チェックイン 19:30 ホテル The Gallery Café 夕食
コロンボ市内	10/29(水)	8:30 Granbell Hotel Colombo 出発 9:00 ①Nawaloka ジャヤンタ会長面会、高齢者施設 NAGAI 視察 (日本資本の高齢者施設を経営) 10:30 ②Jetwing 本社訪問(環境対応のホテル経営) 12:00 ランチ 13:30 ③JETRO 表敬 大井所長によるブリーフィング(スリランカの産業) 15:00 ④UNDP スリランカ事務所表敬 久保田常駐代表(SDGs の取組み)

		<p>16:30 ⑤日本人基地慰霊訪問</p> <p>18:00 ⑥ゴールフェイスホテル 夕食</p> <p>コロンボ市内 Granbell Hotel Colombo</p>
<p>コロンボ市内 から</p> <p>シーギリヤへ</p>	10/30(木)	<p>7:00 コロンボ市内 Granbell Hotel Colombo 朝食</p> <p>8:00 Granbell Hotel Colombo チェックアウト</p> <p>シーギリヤへ移動(4H)</p> <p>12:00 Jetwing Vil Uyana にてランチ</p> <p>13:30 Jetwing Vil Uyana チェックイン</p> <p>14:30 世界遺産シーギリヤロック視察</p> <p>19:00 Jetwing Vil Uyana デイナー</p>
【ダンブッラ市内】	10/31(金)	<p>7:00 シーギリヤ Jetwing Vil Uyana 朝食</p> <p>8:00 Jetwing Vil Uyana チェックアウト</p> <p>ダンブッラへ移動(0.5H)</p> <p>8:30 世界遺産ダンブッラ石寺院視察</p> <p>10:00 ヘリタンスカンダラマ視察</p> <p>11:00 ヘリタンスカンダラマでランチ</p> <p>コロンボへ移動</p> <p>16:00 ダイキの高齢者介護施設 David's Bungalow視察</p> <p>16:30 空港へ移動→17時空港到着</p> <p>20:30 コロンボパンダラナイケ国際空港スリランカ航空 UL454 便</p>
【移動】	11/1(土)	<p>8:10 成田空港</p> <p>9:16 成田空港駅 成田エクスプレス</p> <p>10:17 東京駅着</p> <p>10:48 東京駅 かがやき 525号</p> <p>12:59 富山駅着</p> <p>13:14 富山駅発※山本議員</p> <p>13:22 新高岡駅</p>

4. 各訪問先の記録

日	場所	内容
<p>10/28(火) 19:30~20:30</p>	<p>コロンボ市 ホテル Granbell Hotel Colombo 夕食 The Gallery Café</p>	<p>コロンボ市内到着、夕食会（オイスカで植林したアラハコーンさん合流） 出席者：部会メンバー全員</p> <p>コロンボ市へ全員無事到着。まず 19 時にコロンボ市内の Granbell Hotel Colombo にチェックイン。その後、スリランカが世界に誇る著名な建築家ジェフリー・バワが図面をひいた机がある The Gallery Café へ移動し、そこで長年の協力関係にある植林活動団体オイスカを通じて今年の8月にオイスカ議員メンバーとともに活動を行ったアラハコーンさんと再会を果たした。案内役である神谷さんと、独特の香りや味わいを持つスリランカの伝統的な郷土料理を食事。今回の視察の目的整理と、世界遺産を巡って観光と環境の経済的な循環、福祉医療施設における外国人材の確保、建築家ジェフリー・バワについて確認。アラハコーンさんから貴重な知見を頂いた。</p> <div data-bbox="628 891 1291 1489" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="539 1503 1422 2000" data-label="Image"> </div>

<p>10/29(水) 9:00～10:00</p>	<p>コロombo市 Nawaloka & 高齢者施設 NAGAI Nawaloka Hospital 23, Deshamanya H K Dharmadasa Mawatha, Colombo 00200</p>	<p><Nawaloka ジャヤンタ会長面会、高齢者施設 NAGAI 視察> 出席者 県議会:部会メンバー全員ほか通訳1名+ガイド神谷さん 訪問先:NAWALOKA 病院 Dr.JAYANTHA(ジャヤンタ) <input checked="" type="checkbox"/>訪問先概要: ・医療体制:英国等での研修経験豊富な医師陣。世界レベルの医療スタンダードを標榜。CT・MRIなど高度設備、自社の救急車を所持し、24時間緊急対応。48診療科(部門)に対応し、精神科も設置(隔離病床あり)。日本の機器を導入し南アジアでNo.1の迅速な検査を実現。 ・介護体制:現状入院施設として10部屋所有。富裕層(海外在住者の親等)向け、全介護度受け入れ可能、医療との連携体制が強みである。認知症(ディメンティア)患者の対応も可能。日本人専用施設の拡張計画あったが、現在は外国で働くスリランカ人の親を介護。24時間体制で、ナースや職員がケアにあたっている。 ・費用と制度:医療費は公立無料(原則)。介護費用は自己負担。日本の介護保険のような公的制度は未整備。民間保険との連携による支払い。月額費用は20万～80万円相当(個人負担)でとても高額。スリランカの保険制度未整備が公的連携の課題 ・人材育成:介護人材の日本派遣を視野に、現地で日本語教育と介護実務研修を実施するモデルを運用。医療専門用語を含むカリキュラムを整備中。家族同伴移住モデルの可能性も提示。日本語教育の強化と、介護・看護の共同研修プログラム設計が次の課題である。 <input checked="" type="checkbox"/>部会メンバーからのQ&A Q1. 人材育成・確保や国民性について。日本への派遣は? A. スリランカでは看護師の海外派遣は稀だが、介護人材の育成と日本派遣を計画中。医療現場での英語能力は高いが、日本語教育(特に専門用語)を学校連携で強化する。日本の特定技能制度の活用にも前向きである。 Q2. 病院のベッド数と診療科は?精神科はあるか? A. ベッド数は320床で全て個室。診療科は48の専門部門がある。精神科も設置されており、隔離病床も同じ敷地内に設け、入院対応が可能である。認知症(ディメンティア)にも対応している。 Q3. 医療・介護の費用負担の制度はどうなっているのか? A. スリランカでは、医療費は公的は原則無料。しかし、介護費用は公的介護保険制度が未整備で自己負担が原則となる。現在は民間保険会社との連携で支払いしている。 Q4. 国際連携の状況(シンガポール総領事館)は?</p>
--------------------------------	--	--

A. 施設内にシンガポール総領事館の機能が併設されており、強い交流・信頼関係がある。領事館職員がビザ発行サポートなどを行っており、連携の信頼性の証となっている。

Q5. どのような人に医療を提供しているか？得意な診療科は？

A. 医療ツーリズムを積極的に行っており、医療費が安価であることから、特に目の病気、歯の病気(インプラント含む)、そして耳・鼻・喉(耳鼻咽喉科)などの治療は、安価で質の高い治療を提供できる強みがあります。

Q7. 家族同伴での移住・入所モデルの可能性は？

A. 日本では高齢者本人のみ入所するモデルが主流ですが、スリランカ側は、高齢者1人に対して家族全員が同伴で入所できるモデルも検討している。



10/29(水)
10:30~11:30

コロンボ市
Jetwing 本社

Jetwing Hotels
46, 26 Nawam
Mawatha,
Colombo 00200

<Jetwing 本社訪問(環境対応のホテル経営)>

出席者

県議会: 部会メンバー全員ほか通訳+ガイド神谷さん

訪問先: Jetwing 代表 Dmitri Cooray 旅行会社(Tour Blue Holdings)さん
DINUSHA WERAGALA(ディヌシャ ウェラガラ)さん

スリランカを代表するホテル会社「ジェットウイング」の環境保全と観光産業の両立を目指す経営戦略に焦点を当て、富山県の立山黒部エリア等での環境保全と観光への応用可能性を調査した。同社は38のホテル施設を運営しており、その事業理念は単なる経済活動に留まらず、環境保全と地域社会との共存に深く根ざしている事を確認。

・再生可能エネルギーの徹底活用と環境への配慮

ジェットウイングの環境への取り組みは極めて先駆的である。ホテル運営に必要な電力の約60%を、自社の太陽光パネル、バイオマス発電、および水力発電などの再生可能エネルギーで

賄っているという事実は、驚異的な数字である。特に注目すべきは、食事の残りカスを再利用したバイオマス発電システムで、生成されたガスを社員食堂などの調理に再利用する循環型のエネルギー利用を実践している。太陽光パネルの設置も、木を伐採せず、既存の屋根などの有効活用できる土地に限定するなど、自然破壊をしない開発理念が徹底される。荒地を自然と調和する形に人工的に回復させた事例もあり、その環境保全への意識の高さは富山県としても大いに参考となる。

・地域社会との共創と観光回復の状況

同社は、地元の若者のウェルビーイング(健康と幸福)の向上を重要視しており、ホテル新設時には地域の若者にテーブルマナーやホテルの専門教育を提供し、優先的に雇用することで地域経済の活性化に貢献。また、地元の農家から野菜や果物を購入する地産地消を実践し、ホテルだけが豊かになるのではなく、周辺コミュニティ全体への利益還元を目指す。

部会メンバーからの Q&A

Q1. ジェットウイングの持続可能な取り組みは全てのホテルで行われているのか？

A. はい、現在運営する 38 全てのホテルにおいて、再生可能エネルギーの活用や地域コミュニティとの連携を含む、持続可能な取り組みが徹底されている。

Q2. ホテル開発において環境破壊の懸念はないか？太陽光発電はどのように取り組んでいるのか？

A. 開発においては、自然を取り戻すことを理念としており、木を切るなどして自然を破壊する行為は厳しく制限される。太陽光発電は、国立公園近くのホテルでは自然保護の観点から制限が厳しいため、主に建物の屋根など、有効活用できるスペースに設置されている。

Q3. 日本人観光客の回復状況と、スリランカの魅力とは？

A. 日本人観光客数はコロナ前の半分程度まで回復傾向にある。スリランカの魅力は、日本の昔の良さに似た、人との触れ合いを大切にする文化や、デザイナーのジェフリー・パワ氏の影響を受けたデザイン性の高いホテルにある。特にアーユルヴェーダなどの伝統的な健康法を体験する女子旅が増加している。

Q4. スリランカ経済における観光産業の重要性は？

A. 観光産業は、出稼ぎ労働者からの送金、アパレル産業に次いで、スリランカにとって 3 番目に重要な外貨獲得産業である。コロナ禍で経済がデフォルト状態に陥る中で、外貨を稼ぐ上で観光は極めて重要であり、政府もインフラ整備や支援に力を入れる。

Q5. 国立公園内にあるホテルはあるのか？土地の所有形態は？

A. ほとんどのホテルは自社で購入した土地に建てられているが、国立公園に隣接する一部のホテル(ゾウが入ってくることもある場所)は、国有地を 33 年リースで借りて運営している。

・今後の協力関係構築に向けて

ジェットウイング社の取り組みは、富山県が推進する自然や食の豊かさを活かしたリトリートツアーなどの観光振興において、大きな示唆を与えた。スリランカ側からも、富山県とスリランカの観

光業者間の協力関係構築や、富山県で導入が進んでいる水力発電技術の交流に対する強い関心が見られた。今後は、両地域の観光業の交流を深め、持続可能な観光モデルや技術交流について具体的な連携策を検討していく。



10/29(水)
13:30~14:30

コロンボ市
JETRO コロンボ事務所

JETRO
Colombo
Level 12A,
Parkland
Building, 33
Park St,
Colombo 2

<JETRO 大井所長によるブリーフィング(スリランカの産業)>

出席者

県議会: 部会メンバー全員ほか+ガイド神谷さん

訪問先: 日本貿易振興機構(ジェトロ)コロンボ事務所 大井裕貴所長

ジェトロ(日本貿易振興機構)のスリランカ事務所大井所長より、スリランカのマクロ環境、日ス関係、そして日本への人材受け入れと経済連携の現状について、貴重なレクチャーを受けた。サンフランシスコ講和会議でのスリランカ(セイロン)による日本への支援の記憶が広く共有されており、強い親日感情が根底にあることを再確認した。

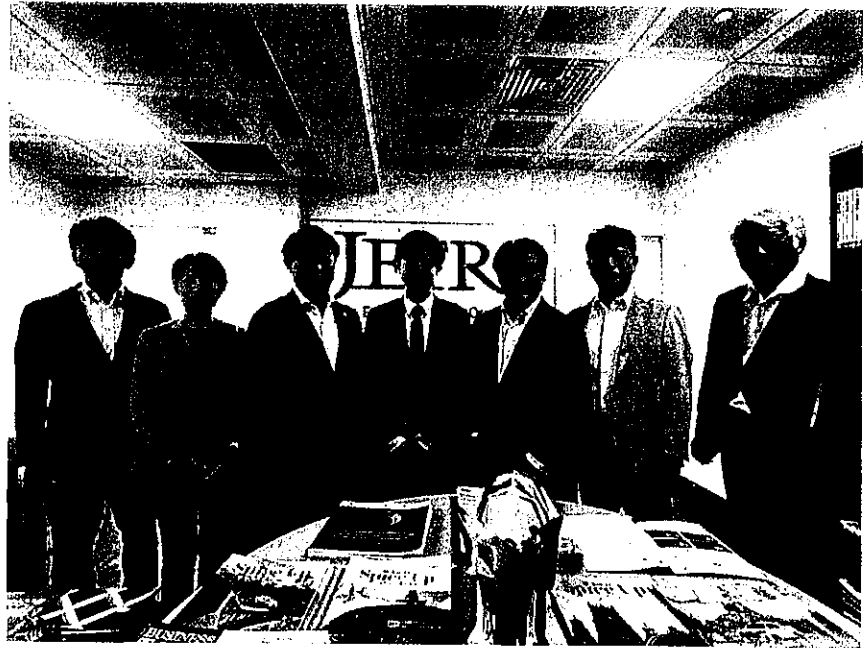
・スリランカの経済・社会環境と日ス関係

スリランカの人口は 2,200 万人弱で、出生率は減少傾向にある。2022 年頃い経済危機とインフレ急騰を経験したが、GDP は近隣のインドやベトナムよりも高く、一定の豊かさを持つ国である。しかし、燃料・機械の輸入依存による貿易赤字が課題であり、政府は再生可能エネルギー(太陽光・風力)の拡大や観光・IT 産業の振興により外貨獲得を目指す。

・人材受け入れと日本での適応性

スリランカは英語話者が多く、コミュニケーション能力が高いことに加え、価値観の親和性から日本での職場環境に馴染みやすい成功事例が多く報告される。

		<p>・今後の連携機会</p> <p>スリランカは、インド洋の結節点としての物流拠点性、対欧州輸出の地理的優位性を持っている。今後は、再エネ・省エネ技術、EV 関連(高関税規制対応)、IT・データ連携など、幅広い分野での協業機会がある。</p> <p>部会メンバーからの Q&A</p> <p>Q1. スリランカの親日感情が強い背景は？</p> <p>A. 第二次世界大戦後、サンフランシスコ講和会議において、スリランカが「憎悪は憎悪によって止まず、愛によって止む」という仏教の教えに基づき、日本への賠償請求放棄を強く訴えた歴史的経緯が、スリランカ国民に広く知られており、これが現在の強い親日感情の基盤となっている。</p> <p>Q2. 自動車輸入の現状と日本企業の出遅れの理由は？</p> <p>A. 2020 年から停止されていた自動車・バイクの輸入が 2024 年 2 月に再開したが、関税が 300~400%と非常に高く、カローラが 1000 万円相当になるほどである。輸入再開直後のルール発表が不透明だったため、中国の EV メーカー(BYD など)が先行販売で優勢となり、日本企業は対応に出遅れる形となった。規制・関税の事前情報収集と即応体制の重要性が指摘される。</p> <p>Q3. 介護・医療分野での人材受け入れの可能性と課題は？</p> <p>A. 介護分野は、対人スキルや日本語の発音の綺麗さから、日本企業による視察・受け入れが増加しており、特に地方就業への適応性が高いとの評価がある。しかし、医療・コメディカル分野は、高い日本語能力と国家試験のハードルから、現状の日本での就労は限定的である。優秀な人材は賃金格差から英語圏(米英豪加)への流出が強く、日本誘致には制度面・言語支援の改革が鍵となる。</p> <p>Q4. 日本社会への適応やコミュニティでの成功事例は？</p> <p>A. スリランカの人々は家族・地域重視の価値観を持っているため、日本の地方文化や町内会などのローカルイベントに溶け込み、出店するなど、地域に馴染む成功事例が共有されている。手先の器用さや丁寧さも高く評価されている。ただし、コミュニケーションにおいては電話志向が強いため、ビジネスでは記録性を確保するためのメール活用を推奨するなど、文化の違いへの配慮が必要。</p>
--	--	--



10/29(水)
15:00~16:00

コロンボ市
UNDP(国際連
合)スリランカ事
務所

UNDP Sri
Lanka
202-204
Bauddhaloka
Mawatha,
Colombo 00700

<UNDP スリランカ事務所 久保田常駐代表(SDGs の取組み)>

出席者

県議会:部会メンバー全員ほか+ガイド神谷さん

訪問先:UNDP スリランカ事務所 AzusaKubota(久保田 あずさ)常駐代表、Akinori
Miyamoto、Daiki Hayashi 合計3名

同国における進行中の開発プロジェクト(特に貧困対策や社会支援)に関する現状と課題について情報共有を行う。スリランカはインドやバングラデシュと比較して貧困の経済格差が高いという背景があり、災害発生時の対応の難しさも議論の対象となる。協議は、小規模資金でも実現可能な支援策の実装可能性と、外部ステークホルダーとの連携強化に焦点を当てる。

・プロジェクトの現状と運用上の不確実性

現在進行中のプロジェクトは、運用上の不確実性が大きな課題となっている。特に、支援の対象ユーザーの人数規模や、提供する物資・サービスの需要見積もりが不明確であり、計画的なリソース配分が困難であるとの認識が共有。また、一部の地域や国では個人IDを持たない住民が多く、本人確認や登録の仕組みの設計が急務となっている。立ち上げに必要な期間も「1週間程度では不十分」であり、段階的な実行が望ましいという認識で一致。

・連携強化と実装に向けた方向性

プロジェクトの成功のためには、外部ステークホルダーとの連携チャネルを確立し、現場への確実なアクセスを確保する必要がある。

部会メンバーからの Q&A

Q1. 支援の対象ユーザーを特定するための最大の課題は何か？

A. 最大の課題は、支援が必要な人々の「ID(本人確認書類)」の未保有率の高さである。IDがない場合、国や企業との連携による正規の登録システムに組み込むことが難しくなり、支援が届かないリスクが生じる。このため、ID なしでも参加できる代替認証フローの設計が必須となる。

Q2. 企業や政府との連携を進める上での課題は？

A. 企業側では、社会貢献への意欲はあっても「何をどう支援してよいか分からない」ケースが多く、プロジェクト側が包括的な設計から実行までを一括して担う。枠組みを提示する必要があり、政府との連携については、制度・承認プロセスの把握が不足しており、政府にとってのウィンウィンなメリットを明確にした提案が求められる。

Q3. 支援を届けるための最も有望なチャネルは何か？

A. 現時点では、学校の先生方を通じて学校経由で導入するチャネルが有力視される。先生方の協力のもと、ポスター掲示や PC サービスなどの活用案を組み合わせることで、コミュニティへのアクセスと情報伝達の効果を高めるパイロット設計を試行し、効果測定を行う方針である。

Q4. 小規模な資金でプロジェクトを回すための工夫は？

A. 最小構成での立ち上げを可能にするため、提供する物資やサービスの「最小実行セット」を定義し、優先順位付けを行う。また、提供物が単なる「ワンパターン」に陥らないよう、ファンデーション的支援(基礎的な土台作り)を維持しつつ、チャレンジングな差別化を図る工夫が求められる。



<p>10/29(水) 16:30~17:30</p>	<p>コロンボ市 ダイキグループ 本社 Daiki Lanka 1st, Platinum One, 1 Bagatalle Rd, Colombo</p>	<p><ダイキグループ本社中村ようすけ氏 高齢者介護施設の取り組み > 出席者 県議会:部会メンバー全員ほか+ガイド神谷さん 訪問先:ダイキグループ Nakamura Yosuke(中村ようすけ)</p> <p>広島に本社を置くダイキグループの中村氏から、海外人材育成、介護事業、および教育事業に関する詳細なヒアリングを行う。同グループは、かつてのエンジニアリング事業の基盤を活かし、現在では日本語学校、介護専門学校の運営、そして自社介護施設の展開まで、人材の育成・就労・定着を一気通貫で支援するユニークなモデルを構築。地方における深刻な労働力不足、特に介護分野での解決策として、富山県との連携可能性を確認することが本協議の目的である。</p> <p>・一気通貫モデルと国別の人材特性 ダイキグループは、スリランカやネパールといった海外拠点で日本語・介護の教育を行い、特定技能、技能実習生、留学生として日本に送り出している。</p> <p>・国別 特徴と評価 スリランカ人:英語力が高く、協調的で日本社会への適応がスムーズ。介護志望者はネパールと比較して少なめ。 ネパール人:志願者が集まりやすく、「何でもやる」攻めの姿勢があるが、向上心ゆえに転職リスクも高い。</p> <p>同グループは、自社正社員として雇用し、広島や岐阜、神奈川などの自社施設で研修・就労させることで、定着と資格取得支援に注力している。</p> <p>・総括と富山県への示唆 ダイキグループの「教育→就労→定着」の一気通貫モデルは、富山県が抱える介護・運送分野の人材不足解消に直結する可能性を秘めている。特に、地方の生活に馴染みやすいとされるスリランカ人材の受け入れ拡大や、廃校活用による大規模研修インフラの考え方は、富山県の遊休資産活用にも可能性を与える。</p> <p>部会メンバーからの Q&A Q1. 介護人材の育成における、学生の学費負担と資格取得の仕組みはどのように設計されていますか? A. 留学生は日本語学校(約2年)を経て、介護専門学校(2年)に進みます。日本語学校の学費は年間約75~80万円ですが、アルバイト(時給1200円前後)を斡旋し、私費とアルバイト収入の併用で学費負担を軽減している。卒業後、5年の就労経験を経て介護福祉士</p>
---------------------------------	---	--

		<p>の受験・資格取得を目指し、夜勤手当やケアマネージャーなどのキャリアアップを可能にする設計である。</p> <p>Q2. 育成コストに見合う最大の課題(引き抜き)は？</p> <p>A. 育成投資が完了し卒業した直後に、処遇改善手当が高い都市部の特別養護老人ホームなどに引き抜かれるケースが多発している。これは、地方で育成した人材が都市部に流出する地域偏在を加速させる深刻な課題である。特定技能の転職規制の抜け穴を利用するブローカーの存在も確認されており、対策が必要である。</p> <p>Q3. 貴グループが展開されている世羅町の廃校を活用した研修施設は、どのような役割を担うのですか？</p> <p>A. 広島県世羅町の廃校を取得し、宿泊と教室機能を備えた大型トレーニング施設として整備中。ここは、新入社員合宿や技能実習の事前講習、そして海外での現地研修などに活用され、人材育成のキャパシティ拡大と集団生活を通じた日本文化適応の促進拠点となる。</p> <p>Q4. 介護以外の分野、例えばトラック・バス運送業への連携可能性はありますか？</p> <p>A. はい、すでにトラック・バス運送業向けの特定技能の送り出し体制を整備しており、全国トラック協会での説明会も実施済みである。免許切り替えが容易な国を特定し、その国での教育を強化。富山県など地方の運送業での深刻な人手不足解消に向けた具体的な連携を提案することが可能。</p> <div data-bbox="746 1093 1209 1697" data-label="Image"> </div>
<p>10/30(木) 8:30~9:00</p>	<p>コロンボ市 日本人墓地 Borella Cemetery,</p>	<p><日本人墓地慰霊訪問 海上自衛隊護衛艦あけぼの合同></p> <p>出席者 県議会:部会メンバー全員ほか+ガイド神谷さん 在スリランカ日本国大使館 護衛駐在官 久保貴幸一等書記官、 在スリランカ日本国大使館 領事 坂本 篤司 海上自衛隊 中嶋 慎太郎 海曹長</p>

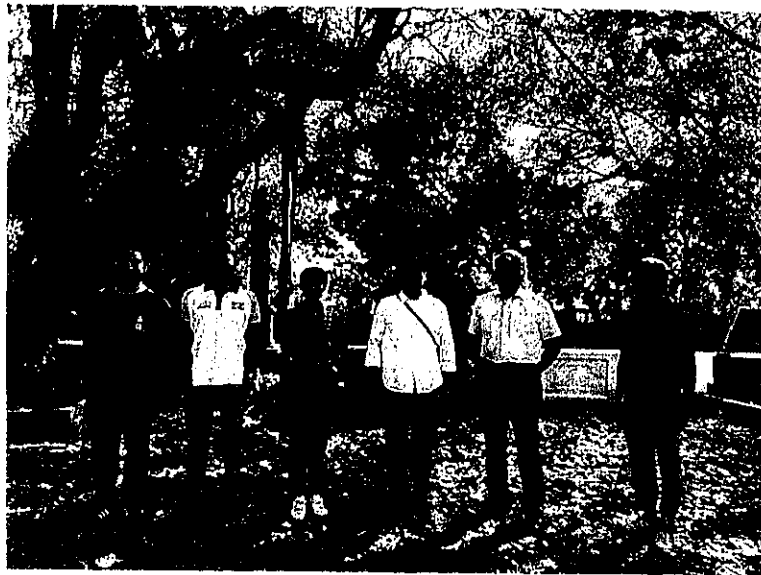
Japanese
section
475
Buddhaloka
Mawatha,
Colombo 00800


スリランカ日本人墓地・慰霊碑の現状と保全に関する報告(概要)

スリランカ(旧称セイロン島)に所在する日本人墓地および慰霊碑の現地視察を行う。本施設は、スリランカが1948年にイギリス植民地から独立し、1972年に国名を改名する以前の歴史的文脈の中で存在しており、SF作家アーサー・C・クラークの埋葬地としても知られる。

・施設の歴史と概要

本施設は、主に二つの場所から構成される。一つ目の日本人墓地は日本人会が運営管理しており、在留邦人22名が埋葬されているほか、戦没者38柱が眠っている。一部の遺骨はすでに厚生省の遺骨保管プロジェクトで報告・保管済み。二つ目の慰霊碑(大日本帝国海軍提出者慰霊碑)は、第二次世界大戦中の旧日本軍関係の戦没者慰霊を目的としている、1970年代に練習艦隊機構の寄付金や日本人会によって建立。この慰霊碑は、1942年の戦闘や陸上戦車関連の慰霊対象も含んでいる。



<p>10/30(木) 14:30～18:00</p>	<p>シーギリヤ市内 Sigiriya,</p>	<p><世界遺産シーギリヤロック視察> 出席者 県議会: 部会メンバー全員ほか+ガイド神谷さん 訪問先: 世界遺産シーギリヤロック</p> <p>5世紀の宮殿跡であるこの巨大な岩山と、精巧な文明の遺構を目の当たりにし、人類共通の文明遺産保護の重要性を痛感。この古代の知恵と、自然と調和する構造は、福祉環境部会として、現代の環境保全と持続可能な開発という課題に臨む際の大きな示唆となる。</p> <p>また、岩山の麓に位置する福田総理記念館を訪問。これは、1970年代に福田赳夫総理大臣(当時)がスリランカを訪問したことを記念したものであり、両国が長きにわたり育んできた強固な友好関係と交流の歴史を象徴。</p> 
<p>10/30(木) 18:30～翌 9:00</p>	<p>シーギリヤ市内 Sigiriya, 21120</p>	<p><Jetwing Vil Uyana ホテル 現場視察> 出席者 県議会: 部会メンバー全員ほか+ガイド神谷さん 訪問先: Jetwing Vil Uyana ホテル スリランカ訪問: ジェットウイング・ヴィル・ウヤナ視察報告(環境共生型リゾート)</p> <p>環境に配慮した自然共生型観光リゾートの開発手法と、その持続可能性を支える独自の技術(排水・廃棄物処理、エネルギー利用)を調査。</p> <p>富山県の地域活性化策、特に豊かな水資源を持つ観光地における環境保全と経済活動の両立策への応用可能性を検討。</p>

・ホテルの環境共生コンセプト

設計理念：もともと農地だった場所を、人工的な湿地や葦原を造成することで「自然保護区」として機能させるエコラグジュアリーなリゾートとして設計・運営。

生物多様性の創出：広大な人工湿地帯が単なる景観維持ではなく、動植物の生態系を創出し、リゾートの魅力を高める役割を担う。

評価：自然の景観と経済活動を両立させる先進事例として、本県の観光振興策に大いに参考となる。

・独自の環境配慮型システム

排水処理：人工湿地システム(リードベッド)

仕組み：排水は、敷地内に造成された、人工湿地システム(伏流式人工湿地：リードベッド)を通過させることで自然浄化される。

プロセス：

ヨシ(葦)などの水生植物が植えられた砂利・砂のろ過層を排水がゆっくりと流れる。

植物の根の周りに生息する微生物が有機物を分解し、自然のろ過によって水が浄化される。

特徴：伝統的なスリランカの貯水槽システムに着想を得た自然のろ過層であり、浄化された水は生態系の中で再利用される。

・固形廃棄物(ゴミ)処理

分別とリサイクル：固形廃棄物は徹底的に分別し、リサイクルを推進している(事務所の文房具なども再利用)。

コンポスト化：食物残渣などの有機廃棄物はコンポスト(堆肥化)され、敷地内の植栽の肥料として利用される。

焼却禁止：ゴミを処分するための焼却炉は一切使用しないという方針を徹底している。

・エネルギーと排出ガス管理

バイオマス利用：グループ全体としてバイオマス燃料を導入し、化石燃料の使用削減に貢献している事例がある。

課題：Vil Uyana 単独では冷却設備(エアコン)利用により電力使用量が多い傾向にあり、さらなる再生可能エネルギーの導入が課題とされる。

削減策：車両の定期整備、エアロゾル(スプレー缶など)の使用削減により、排出ガスを最小限に抑える。

・富山県への示唆と展望

応用可能性：自然景観と一体となった排水浄化手法は、富山県内の水資源が豊富な地域や自然公園内での観光施設整備において、小規模分散型の環境配慮型処理システムとして応用可能である。

重点目標：自然環境への負荷を最小化しつつ、観光の魅力を最大限に高める「自然共生型エコラグジュアリー」の考え方を、本県の地域活性化策に取り込むべきである。

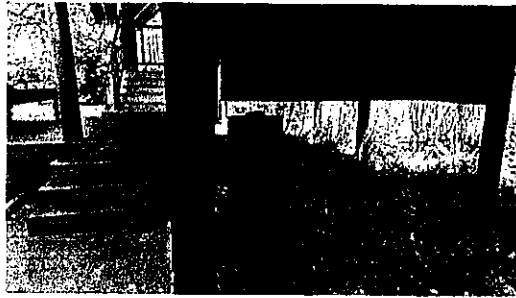


—エコラグジュアリーなリゾートホテル—



—敷地内の植栽の肥料として利用する為、作業を行っている社員さん—





—排水処理:人工湿地システム(リードベッド)—

11/31(金)
9:30~12:00

世界遺産ダン
ブツラ石窟寺院
視察

<世界遺産ダンブツラ石窟寺院視察>

出席者

県議会:部会メンバー全員ほか+ガイド神谷さん

訪問先:世界遺産ダンブツラ石窟寺院

1. 視察目的と概要

紀元前から続くスリランカ仏教芸術の精華に触れ、その歴史的・文化的価値を理解。多数の観光客が訪れる世界遺産の保護と維持管理の現状を調査し、富山県の文化財保護への示唆を得る。

2. 寺院の起源と建立の意味

建立時期と起源: ダンブツラ石窟寺院は、主に紀元前1世紀(紀元前89年~77年頃)。

建立の意味: ヴァッタガーマニ・アパヤ王が、敵に追われてアヌラーダプラから逃れた際、この岩窟に身を隠し、王位を奪還した後、その恩に報いるためにこの石窟群を仏教寺院として建立したのが始まりとされる。

歴史的変遷: 建立後も、ポロンナルワ時代を中心に、各時代の王によって増改築や装飾が加えられ、12世紀以降も現代に至るまで信仰の場として使われる。

3. ダンブツラ石窟寺院の規模と特徴

石窟の数: 5つの主要な石窟群(「デーヴァ・ラージャ・ヴィハーラ(神王の寺院)」など)と、70以上の小さな石窟がある。

仏像の数: 記録上、150体以上の仏像(立像、坐像、涅槃像)が安置されており、そのほとんどが石窟内の岩を彫って作られる。

涅槃像の長さ: 最も有名な大涅槃像の一つは、全長約14メートル。

壁画の総面積: 石窟内の仏教美術の壁画は、総面積約2,100平方メートル(畳約1,280枚分)にも及び、スリランカ最大の壁画群を形成している。

世界遺産登録: 1991年にユネスコの世界遺産に登録。

4. 信仰と遺産保護の視点

信仰の継承：紀元前から続くこの場所が、現在もなお、僧侶が駐在し、多くの巡礼者や信者によって現役の信仰の場として使われ続けていることに感銘を受けた。

保護の課題：多数の観光客が訪れており、その入場料や周辺収入が、遺産の修繕、維持管理、ゴミ回収といった保護活動に回される可能性が高い。この観光需要をいかに文化財の保全に還元し、持続可能な運営体制を構築するかという課題は、富山県内の文化財保護にも示唆を与える。



11/31(金)
13:00~14:00

ヘリタンス・カン
ダラマ
Heritance
Kandalama
11, Dambulla
21106

<ヘリタンス・カンダラマ視察報告(自然共生型建築)>

出席者

県議会：部会メンバー全員ほか+ガイド神谷さん

訪問先：ヘリタンス・カンダラマ

1. 視察目的

スリランカの著名な建築家ジェフリー・パワ設計のホテル「ヘリタンス・カンダラマ」を視察し、自然と完全に調和した建築デザインと、地域住民との環境保全における共存のあり方を調査。

富山県における景観保全と観光施設開発の両立策への応用可能性を検討。

2. ホテル「ヘリタンス・カンダラマ」の特異性

設計コンセプト：建築の巨匠ジェフリー・パワが設計。スリランカの岩盤に沿うようにホテルが一体化しており、世界遺産ダンプッラ石窟寺院の現代版とも感じられる、極めて独創的なデザイン。

自然との同化：

ホテル全体が岩の側面と一体化し、木の蔭や枝が建物に絡みつき、まるで自然に飲み込まれているかのような景観を創出。

サルが軒先やバルコニー、庭に頻繁に出入りするなど、野生動物と共存。

木や植物が建物の内外で「同化」しており、人工物と自然物の境界が曖昧。

3. 環境保全と地域社会との関係

増設反対の事例：過去にホテルの増設案があった際、地元住民から「自然を壊してはいけない」という強い反対があり、計画が撤回された経緯がある。

示唆：これは、リゾート開発が地元住民の環境意識向上に繋がり、開発を抑制する力となっている先進的な事例であり、富山県の観光開発における地域合意形成の重要性を示唆。

4. まとめ

ヘリタンス・カンダラマは、「建築を自然に埋もれさせる」というパワの哲学を体現しており、その徹底した自然との調和は、富山県が目指すべき環境保全型観光の究極の姿の一つであると確信。



スリランカ視察 所感

山本 徹

1, スリランカの介護人材

ダイキグループが取り組む外国人介護人材の育成は先端を行っている。必要なトレーニングと日本語教育を一手に担い、短期間で実績を上げようとしている。学校法人ダイキ学園 ウェルテック専門学校広島校は外国人介護士育成のための特別なスキームを備える。海外から留学生を受け入れ、日本語学科で2年、介護学科で2年。それで在留資格「介護福祉士」取得まで道が開ける。海外での日本語学校も設立され、ほぼ一貫した人材育成と海外介護人材受け入れを手掛けている。

JETROでも聞いた話だが、スリランカと日本の親和性は高い。まず協調性が高く、いったん親しくなると仲間意識が強く働く。日本に対するポジティブなイメージが浸透しているし、スリランカ国民の7割が仏教徒であるので、宗教的な土台も共通している。

しかし、スリランカ屈指の病院である「ナルワカ・ホスピタル」は、日本への介護人材送り出しに取り組んだものの、失敗に終わっている。他の国への送り出し実績のある同病院だが、言葉の壁を乗り越えることはできなかったようだ。

本県の介護人材を外国人によって補うという試みは、十分準備をして取り組む必要があると考える。

2, Jetwing Hotels の地域開発

スリランカのホテルチェーン Jetwing Hotels は、単なる宿泊施設の提供にとどまらず、環境保全や地域社会、そして人材育成まで視野に入れた「持続可能なホテル開発」のモデルをスリランカ国内で確立してきた。1970年代の創業以来、現在では30以上のホテルやヴィラをスリランカ全土に展開している。

社長のドミトリ・クーレイは3代目で40名の若手経営者だ。自信に満ち溢れている。

Jetwing Hotels は、バイオマスボイラーやバイオガス消化装置、蒸気吸収式冷房機（バイオマス由来蒸気による冷房）などを導入し、ホテルの日常運営においてもエネルギー効率と廃棄物の循環利用を徹底。例えば食品廃棄物はバイオガスに、庭園の剪定くずは堆肥として再利用。リサイクル可能なプラスチックや紙ゴミは外部リサイクル業者へ委託するなど、資源の無駄をできる限り減らすシステムを構築している。

こうした環境保全に対する取り組みは、2023年にスリランカ国内において観光セクターの「グリーン投資優秀賞」を受賞するなど、高く評価されている。

Jetwing Hotels が展開する「地域との共生」は、直接的な環境保全以上の深みを持つ。ホテル建設・運営によって地元には新たなインフラをもたらし、周囲に飲食店やサ

ービス業などが波及するよう設計されている。

また、地元の農産物や食材、資材を使うことでローカル経済への還元を促進している。あるホテルではシナモン産業由来の木材をバイオマス燃料に使うことで、地元農家や供給チェーンに追加収入をもたらしている。

ホテル滞在者には、現地の村や市場、茶畑などをめぐる文化体験や職人・農家との交流を提供。こうした「体験型ツーリズム」は、単なる観光消費ではなく、スリランカにおける地域の自然や文化、暮らしを旅行者に知ってもらうと同時に、サービスを提供する地域住民には、地域の自然や文化、暮らしを尊重・維持することの大切さを学ばせている。

持続可能なホテル運営には、地元根ざした人材の育成・確保も不可欠である。農村部の若者に対して、英語、ホテル業務、マナー、文化や歴史などのトレーニングを無償で提供し、同社のホテルでの就業機会につなげてきた。

こうした包括的な地域連携の取り組みは、観光による長期的な地域社会の発展に結びついている。そのことはまた、中長期的な観点での、地域とともに進められる環境保全活動と水面下でしっかりコミットしているのだ。

スリランカという豊かな自然と多様な文化を抱える島国において、Jetwing Hotelsのような「エコ」「地域共生」「人材育成」を包括したホテル開発のモデルは、観光による恩恵を地域に確実に届けるための模範だといえる。観光は、単なる“消費”ではな

く、持続可能な社会を育む「地域との共創」である。そのメッセージは、今回の視察を通じ、十分受け止めができたと思う。富山県が進める観光施策に、こうした観点が盛り込まれるよう努力したい。



【福祉環境部会 スリランカ視察雑感】令和7年10月27日(月)～11月1日(土)

県議会の自民党議員会福祉環境部会にて、スリランカを視察。

スリランカは赤道に近く、年間を通して30℃程度、雨季と乾季があり高温多湿の熱帯気候の国である。日本との時差は7時間半、成田空港からは9時間のフライト。また人口は2167万人程度、平均年収は50～60万円程度であり、首都圏と農村部での経済格差が顕著な国でもある。

今回は日本の福祉サービスを倣って作られた現地の医療・介護施設や、日本企業が仕掛ける日本での介護職就業を目指す留学の仕組みのほか、自然や世界遺産を活かした富裕層向け宿泊施設や観光施策について視察。「百聞は一見に如かず」を改めて痛感した。



「外国人材の留学支援」

広島県に本社がある自動車整備と介護施設を手掛ける Daiki Group は、スリランカに支社を置き、日本での就業を希望するスリランカ学生に対し、大変興味深い支援方法を実践している。

- ①日本での就業を希望するスリランカ学生を選抜
- ②スリランカ学生の日本への留学を支援
- ③広島県の日本語学校における言葉と生活習慣の習得、専門教育による資格取得の支援
- ④資格取得者を自社にて雇用

と4つの段階において、日本語教育+専門教育+就職を支援し、確実な就労に繋げている。

(留学75万円/年、専門学校80万円/年であり、奨学金とアルバイトで賄う学生が多い)

近年、外国人技能実習制度によって入国した外国人による地域トラブルが全国各地で取り上げられている。トラブルの要因は大きく2つ。言葉の壁と生活習慣の違いと指摘されている。

人材確保とトラブル回避、両方の解決策として導入したこの仕組みについて、企業の担当者からは、学生の頃から日本へ留学することで言葉や生活習慣を習得し、長く支援してもら

った企業への帰属意識を持って就労することで、地域とのトラブルもなく仕事の質が上がるとの説明を受け、理解を深めた。

一方、難点は、人材育成に時間が掛かり、その間の企業負担が大きいことである。外国人技能実習生制度の進化系として企業を支援するメニューができれば、外国人材と共生できる方策のひとつになるのではないかと期待する。

「スリランカの医療・福祉サービス」

スリランカは社会主義共和国のため、国立病院は無料。しかし、国立病院では薬が不足しがちで最新の医療機器等が備わっていない等の課題がある。

一方、訪問した民間病院 Nawaloka 病院は、スリランカに5つある大規模総合病院のうちのひとつで、スリランカ人の上位およそ1%の富裕層を対象とし、薬の優先的確保や日本の医療機器を導入している等をインセンティブとしている他、日本を倣った介護施設を併設した唯一の病院として知られている。

特に、女性の就業率がおよそ3割というスリランカにおいて、介護は家族（主に女性）が担うものという意識が強く、介護サービスの利用は超富裕層だけが許された特別なものとして受け止められている。

訪問した病院併設の介護施設は、日本円にして20万円～40万円/月で3食食事付き、服薬指導あり、2週間に一度は買い物支援、また1週間に2回程度ミュージカル観賞等を取り入れており、日本のサービス付き高齢者住宅のような場所であった。

ただ、日本のような介護保険制度はないため、自己負担により月20万円～40万円の料金を捻出することは、一般のスリランカ国民には困難であり、経済格差を象徴している施設でもある。

日本の介護サービスが特別なものとして評価され、途上国でも憧れを持って導入されるのは名誉なことと感じるとともに、日本の国民皆保険や介護保険制度の理念は尊く、人口減少下においても持続可能な制度であるよう不断の見直しが必要だと強く感じた。

「自然の中で野生動物と過ごす環境配慮型リゾートVIL UYARA」

スリランカの主な産業は農業と観光です。豊かな自然と世界遺産を武器に、スリランカの自然と食、文化を満喫してもらい、その対価を地域に還元する取り組みを進めている。

特に Jetwing 社は、環境に配慮し、適切に手を加えることで自然の再生を目指すリゾー

ト開発会社である。

Jetwing 社 6 つのコンセプト

- ①再生可能エネルギーの活用（ホテルの食べ残し等を利用したバイオマス発電やバクテリアを利用した水浄化システム等）
- ②無駄をなくす取り組み
- ③文化・自然遺産を活かす
- ④コミュニティとの共生と雇用創出（こどもたちへのマナー教室をはじめ、大人になってからの雇用までを切れ目なくサポート）
- ⑤地元産業（主に農業）の活用と地産地消
- ⑥地元住民の健康サポート

Jetwing 社は国内 38 か所でホテル事業を展開しており、国立公園内立地のホテルはないものの、国立公園隣接の国有地を借りてホテルを建設、ゾウなどの野生動物が行き来する姿を見ることができるとのこと。

特に宿泊した VIL UYARA は、荒地を購入後、適度に人の手を入れることで自然を再生しつつリゾート開発した宿泊施設であり、敷地内には野生動物が多く生息している。夜間には宿泊者向けの敷地内野生動物探索ツアーも実施していることから豊かな生態系が見受けられた。

またホテルの食べ残しを利用した自家発電やバクテリアで有機物を分解する水浄化システムを導入し、浄化した水を畑等で活用する取り組みも進められていた。

さらに VIL UYARA では、Jetwing の理念の通り地元住民を従業員として採用しており、地元の主要産業が農業という土地柄からも若者たちにとって VIL UYARA で働くことが憧れとなっているようだった。

自然に身を委ね、ゆっくりと時間が流れる贅沢なりリゾートの見本であるだけでなく、地域内の好循環が図れる仕組みは大変参考になった。

「シーギリヤ・ロック」

1982年に世界遺産登録されたシーギリヤ・ロック。古代王カッサバが地上200メートルに築いた宮殿跡地で、天空に浮かぶ古代宮殿と言われている。

鉄製の階段を登って、頂上の宮殿跡に立つと360度緑の絨毯を見渡することができる絶景ポイントである。

地元の方は格安の入場料で、観光客は別料金設定で入場することになっている他、地元住

民によるガイド業も大きな収入源となっている。

なお、野犬も鉄階段を昇り降りし、地上200メートルの宮殿跡地を闊歩している姿は印象的だった。

「ダンブッラ石窟寺院」

岩山の山頂に自然の洞窟を利用した窟があり、その中に多数の仏像が安置されているほか、無数の壁画が描かれている。1991年に世界遺産登録。

窟は5つあり、それぞれ時代が異なっているとのことで、現在でもそれぞれの窟でお参りが行われていることから、曜日や時間によっては見学できないことも。紀元前から続く礼拝所であるとともに、芸術文化の拠点としても継承されていることから、外国人観光客も多く訪れている。深い信仰が仏教の壁画を芸術の域に高めていった歴史にも感慨を受けた。

一方、信仰の場として現在も使用されている上、多くの観光客で賑わう場所であるため、文化財保護や環境保護という観点から、持続可能な維持管理方法にも注目したい。

福祉環境部会

亀山 彰

ジェットウイングは2010年にできました。新しいタイプの木を植樹したり自然を取り戻す環境優しく建てています。エネルギーの事を考えて、効率よく使うことで黄砂のような土埃を防ぐ、あるいは、暴風雨を防ぐようになっています。

また人々のつながりを大切にして地元の雇用も生んでいます。テーブルマナーを子ども達に教えて、将来ホテルで働きたくなるようにしています。他の周りの企業と比べて優しく生活をサポートしています。働いている人のウェルビーイングも考えています。

地産地消に努め、ソーラーパワーでは全部で2.6メガワット賄っています。食料の残りをバイオマス発電ガスを使って処理しています。60%が再生可能エネルギーを使っています。38ヶ所のホテル全てにプールがありますが、メガソーラーではありません。国立公園内にも Yala にもありますが、国が所有しています。

スリランカは脆弱な人々(貧困層家庭や高齢者)の82%が農村地域に居住しています。

2020年の経済危機には暴動が起きました。消費税を15%から8%に下げ、今の政権で18%に戻しています。女性議員が増えたとはいえ、女性の労働参加率が32%に留まるなど、社会的不平等が存在しています。

世界遺産を二箇所視察しましたが、シーギリアロック・ダンプツラ石窟寺院のいずれも観光化されていて、日本円で千円とか、分かりやすいように価格設定されているように感じました。年収五十万円月収四万円程度とは思えないほど、観光地価格だったようです。

所感：藤井大輔（自民党富山県議会議員会・福祉環境部会・部長）

今回のスリランカ視察は、富山県が直面する医療・介護分野における人材確保の課題、そして持続可能な観光振興のあり方に対し、具体的な道筋を示すような事例を数多く視察することができました。以下所感を述べます。

1. スリランカ人材の富山県への適応性と医療・介護分野での活躍の可能性について

現地でのヒアリングや情報共有を通じて、スリランカ人材は富山県の医療福祉領域の未来において、重要なパートナーとなるのではないかと感じました。特に重視するのは、スリランカの人々が持つ日本の文化や風習への極めて高い親和性。ジェトロ（日本貿易振興機構）のブリーフィングでも、スリランカの人々はサンフランシスコ講和会議での歴史的経緯から来る強い親日感情を根底に持ち、その価値観や生活習慣が日本社会と親和性が高いため、日本の職場環境にスムーズに馴染む成功事例が多いとの情報をいただきました。

私の地元の富山市新庄地区でもスリランカのご家族が住んでいますが、町内会やPTA活動に積極的に参加していらっしゃいます。あくまで一事例ではありますが、スリランカの人々の風習や宗教観が日本と似ていることで、日本の地方文化や町内会などのローカルイベントにも溶け込み、地域社会に馴染みやすい傾向があるのでは、と感じています。

ただし、スリランカ人にとって日本語を習得するハードルは高いとのこと。多くのスリランカ人材が日常会話として英語を話せるため、国外で仕事を求めるときには、まずは英語圏を選択する傾向にある。その点、ダイキグループでは日本語教育や医療・介護の専門教育から、日本での介護施設での就労、そして地域への定着までを支援する一気通貫のモデルが構築されており、すでにネパール人材で育成の成功事例があるとのこと。今後はスリランカ人材を積極的に介護福祉領域で拡大していく戦略を持っており、富山県としてもこのダイキグループの一気通貫モデルは非常に参考になるのではないかと考えます。

2. 環境保全型リゾートホテル開発の推進と富山県への応用可能性

今回の視察では、スリランカを代表するホテル会社「ジェットウイング」が実践する、環境保全と観光産業の両立を目指す先駆的な経営戦略に触れ、富山県が推進する自然や食の豊かさを活かしたリゾートツアーなどの観光振興とも親和性が高いと感じました。

ジェットウイング社の環境への取り組みは徹底されており、ホテル運営に必要な電力の約60%を太陽光、バイオマス、水力などの再生可能エネルギーで賄っているとの説明を受けた。特に開発においては、木を伐採せず、既存の屋根などの有効活用できる土地に太陽光パネルの設置を限定するなど、自然破壊をしない開発理念を徹底している点は、富山県での国立公園内での観光開発モデルとしても参考になるのではないかと感じました。

藤井大輔

実際に宿泊した Jetwing Vil Uyana では、農地だった場所を人工的な湿地や草原を造成し、「自然保護区」として機能させるエコラグジュアリーなリゾートとして運営。さらに、排水処理にはヨシ(葦)などの水生植物を利用した人工湿地システム(リードベッド)を導入し、自然のろ過によって水を浄化し、生態系の中で再利用するシステムを実践している。これらの自然景観と一体となった排水浄化手法は、小規模分散型の環境配慮型処理システムとして応用できる可能性を秘めているのではないか。

また、同じく環境配慮型ホテルであるヘリタンス・カンダラマの視察で、建築の巨匠ジェフリー・バワが設計した、自然と完全に調和した建築デザインが素晴らしく、非常に感動しました。富山県においても、自然環境への負荷を最小化しつつ観光の魅力を最大限に高める「自然共生型エコラグジュアリー」の考え方を観光開発の重点目標に取り入れることで、観光振興と環境保全の両立を目指すことができるのではないかと感じました。

福祉環境部会 スリランカ視察所感（寺口智之）

国の課題は労働力の国外流出。特に若者が近隣他国に出て戻ってこない。外貨の獲得の最大項目は、出稼ぎ労働者からの送金ではあるが、国内労働力の減少が懸念材料だった。

（令和7年10月27日～11月1日）

スリランカにて、医療・介護、環境・観光分野の現場を中心に視察を行った。2度目の訪問であったが、前回植林活動や教育支援を通じて感じた人々の温かさや前向きな姿勢を土台に、今回はそれを社会制度や地域経済の側面からより広く捉え直す機会となった。

視察先では、経済危機からの再生途上にありながらも、国民が互いに支え合い、前向きに社会を築こうとする姿勢が印象的であった。訪問したナワロカ病院では、世界水準の医療技術を基盤に、介護を医療と一体化させた富裕層向け施設を運営していた。介護保険制度が未整備な中でも、民間の力で高齢者ケアを支える仕組みが構築されつつあり、日本語教育を取り入れた介護人材の育成にも取り組んでいた。介護分野での人材確保が課題となる富山県にとって、現地との人材交流の可能性を感じる内容であった。

一方、環境・観光分野では、ジェットウイング社による循環型ホテル経営が極めて先進的であった。電力の約六割を再生可能エネルギーで賄い、食物残渣を再利用したバイオマス燃料や、人工湿地を活用した排水浄化システム（リードベッド）など、環境負荷を最小限に抑えながら観光業を展開している。自然と共生する姿勢と、地元住民の雇用・教育支援を通じた地域共創の理念は、富山県が目指す「持続可能な観光」や「地域循環型社会」の方向性と多くの共通点を持っており、非常に示唆に富むものであった。

さらに UNDP スリランカ事務所では、貧困層や ID 未保有者への支援、官民連携の仕組みなどを説明いただき、制度や資金に頼らずとも実現できる地域支援モデルの重要性を再認識した。また、ダイキグループによる介護・運送分野の人材育成や、日本語教育を通じた「教育から定着までの一体型支援」は、地方の人手不足に対する現実的な解決策として高い可能性を感じた。

今回の視察では、8月の植林視察で得た「人と自然の共生」という視点が、医療・介護・観光などの社会基盤と結びつき、「人と人の共生」へと発展していることを実感した。経済的に厳しい環境にありながらも、笑顔と誠実さを忘れずに未来を切り拓こうとするスリランカの人々の姿勢は、私たちの地域づくりにも学ぶべき点が多い。

今後は、スリランカとのネットワークを活かし、福祉人材や環境・観光技術など多方面での交流を継続し、互いの強みを生かした協力関係を深化させていくことが重要である。人と自然、地域と世界を結ぶ「持続可能な共生社会」実現に向けて、今回の学びを今後の県政にしっかりと生かしていきたい。

以上